

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年4月15日

事業ID:2024002541

事業名:山口県萩市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営(最終年度)

団体名:特定非営利活動法人
山口せわやきネットワーク

代表者名:代表 児玉頼幸

TEL:070-7562-1187

事業完了日:2025年3月31日



■契約時

事業費総額	:	7,200,000 円
自己負担額	:	1,440,000 円
助成金額	:	5,760,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	7,737,864 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	1,977,864 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	5,760,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 山口県萩市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2024年4月1日～2025年3月31日
(週4～5日、13時から19時まで開所)
(2)場所:山口県萩市
(3)対象:30名(家庭や自身に課題を抱えた小中高生と地域住民を中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する



(2)事業完了時の事業内容(実績)

(1)期間:2024年4月1日から2025年3月31日まで、毎週火～金11時から19時まで、土10時から19時まで開所。2024年7月から毎週木曜はお休み(週4日開館)に変更
(2)場所:山口県萩市
(3)対象:コミュニティモデルとして広く利用を呼びかけるとともに、萩市担当課の協力でひとり親家庭などに利用を呼びかけ、家庭などに課題を抱えた小中学生などが利用した。1日平均18人
(4)内容:学生ボランティアなどによる子どもたちの見守りや学習支援、こども食堂などを通じて、子どもたちに寄り添いながら、子どもたちの生活や学ぶ意欲向上などの支援に努めた

(3)成功したこととその要因

萩市内での活動も3年目となり、当初から市内の大学の事務局や担当教官との連携により、福祉系を専攻する学生が続けてボランティアとして参加してくれ、子どもたちに粘り強く関わることでこどもとの信頼関係を築き、

子どもたちにとっても安心できる居場所づくりができている。小学生・中学生を対象とした食事付き学習会は特に、中学生は人数は多くないものの、毎年、全員、志望校に合格するなど効果が上がっている。小学生から中学生に上がった後も継続して学習会に参加する子もあり、利用増加にもつながっている。

(4)失敗したこととその要因

前年度、後半に送迎用の車両を購入し、少し離れた地域の子どもたちも送迎することで利用の増加につながったが、主に送迎を担当してもらっていたスタッフ(パート)が2024年5月末で退職することになり、それ以降の送迎はマネージャーだけが担当する(学生ボランティアには車両の運転はさせていないため)ことになり、それまでより、送迎の範囲や回数が制限されることになった。結局、年度内は送迎のみでも対応できる人員を確保できなかった。

(5)事業内容詳細

毎週、火曜から土曜まで週5日(7月以降は週4日、夏休み期間中は週5日)開館し、平日の午後は小学生が来て、備え付けのおもちゃやボードゲームなど、学生ボランティアと一緒に過ごすことが定着してた。また、水曜夕方の中学生向け学習会、土曜午前の小学生向け学習会はどちらも調理ボランティアによる食事付きなので、こどもも保護者も喜んでる。特に土曜は子どもたちが多く、ボランティアと一緒に食べる様子は一つのこども食堂とも言えるほど、馴染んでいる。学生ボランティアのサポートにより、中学生は学力も付けて、高校に合格するなど成果も上がっており、今後、ひとり親家庭などを中心に参加を呼びかけていく。月1回、こども食堂は面積の関係で最大60人ほどであるが、家族での利用も定着している。また、ひとり親家庭向けのパントリーを年6回実施し、毎回50家庭が利用しており、併せて、学習会などの案内を行い、利用につなげている。その他にも、日本財団からの体験支援助成金によるバスツアーなど開催し、子どもたちに様々な体験や学びの場を提供している。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

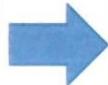
(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- ・行政や関係団体と「運営サポート委員会」を設置して、情報提供や意見交換を行い、地元関係者と連携した施設運営を行う。併せて、地元小中学校等に対し、利用促進の協力を要請する。
- ・2025年3月31日までに一日平均利用児童数を15名にする。
- ・ボランティア等の大学生や地域住民、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供。
- ・子どもの体験イベントを事業期間内に20回実施する。地元企業等にも協力を呼び掛け、子どもたちの地元への理解促進につながるように努めるとともに、企業の満足度を上げ、さらに寄付等の支援増加に結び付けていく

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	700	文字数チェック	700文字を越えています。700文字以内になるようご調整ください。
-------	-----	---------	-----------------------------------

・「運営サポート委員会」

開設当初から、地元市担当課、教育委員会、市社協、関係団体等と定期的に、会議を開催し、事業に関する報告や運営内容に関する協議、様々な協力依頼などを行っており、2024年度も2回開催し、利用促進等に向けて意見交換を行った。また、会議の場以外も、各委員に様々な依頼等で訪問している。

・「一日平均利用者数」

居場所や学習支援、こども食堂などについて、地元小中学校6校に毎月、案内のチラシを配布したり、SNSなどでの発信を行い、年間平均で一日平均18人を達成している。

・「ボランティア等の大学生や地域住民等との交流機会の提供」

週2回ある学習支援や月1回のこども食堂など、地元の調理ボランティアが調理する際、学生も一緒に調理したり、お互いの交流が図られるとともに、様々な体験メニューも地域の住民や団体に協力をお願いし、参加する子どもたちとの交流も図ってもらっている。

・「子どもたちの体験イベントを20回実施」

特に夏休みを中心に実施しており、これまでの活動を通じてつながりを持った市内の団体や企業に企画していたいいたイベントが多く、子どもたちや学生もいろいろな経験をすることができた。また、月1回のこども食堂に毎回、お肉を提供いただく「秋ミート」、新米の時期のイベントに新米を提供いただく「JA山口県萩統括本部」など企業等からの支援も定着し、2024年2月には市内の「村田蒲鉾」の協力により、工場見学会と出張こども食堂を店舗内で開催していただき、蒲鉾など多くの商品を提供され、参加した家族もとても喜んでいた。今後も地元の企業や団体との連携による企画を続けていきたいと考えている。

3.事業実施によって得られた成果

コミュニティモデルとして、約3年間、対象を限定せず、地元小中学校(小学校4校、中学校2校)に毎月、「通信」として利用案内の配布(約2,000枚)を続けており、認知されてきており、近隣のこども関係の施設(児童館アド)等との連携し、子どもたちにとって選択肢が増えるとともに、他施設で支援等が必要と思われる子どもを紹介してもらい、夏休みなど「お腹がすいた」などと言ってくる子どもたちに食事を提供したり、学習支援につなげることができている。

ひとり親家庭などへの利用促進の呼びかけについても、今年度は年6回、フードパントリーを実施し、実際に会場に来てもらうことで親にも安心してもらい、チラシを渡して声掛けすることで、利用に結び付いて家庭もあった。学習会に来ている中学生が希望校に合格することで、今後の呼びかけのよい材料となっている。

また今年度も体験支援の助成金により、主にひとり親家庭を限定してバスツアー（アイススケート体験）を実施し、子どもたちとボランティアの交流が図られ、保護者からも子どもと一緒に体験できたことを喜ばれた。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

約3年間の活動を通じて、情報発信による子どもたちや保護者への周知や事業内容の充実、市や市教委、市社協や関係機関等との運営サポート協議会等を通じて情報共有や連携、地元の小中学校や団体、企業等とのつながりなど、地域とのつながりを強めながら、取組を進めてきた。

隣に萩市内でも児童数の多い明倫小学校（600人）があり、当初から、放課後児童クラブ（6割程度が利用）との兼ね合いや、「困難を抱える子どもたちの居場所」と限定することで利用しにくくなる懼れから「誰でも利用できるコミュニティカフェ」として、利用を呼び掛けてきた。毎月、小中学校に配布するチラシやSNSなどの情報発信、各種イベント等を通じて、呼びかけ、利用者も確保できているが、「支援が必要な子どもを見つけ、利用につなげる」ことはなかなか難しい面もあった。

そのため、ひとり親家庭向けのフォードパントリーやバスツアーを開催し、直接、呼びかけも行っているが、地理的な事情等もあり、学習会等への参加が難しいケースなど、今後、対策が必要と思われる。

さらに、3年間の助成期間が終了するため、当初から萩市担当課には、4年目以降の事業化を提案し、国事業を活用した他市の事例を紹介するなど、働きかけを行ったものの、結局、予算化されず、4年目は法人独自での取組に変わることになり、様々な助成金への申請や地元企業等への寄付の呼びかけにより財源を確保し活動を続けることとしているが、萩市に対しては事業継続の必要性を訴え、引き続き事業を働き掛けることとしている。

5.事業成果物

（1）助成契約書記載の成果物名称

- ・活動報告書
- ・関係機関向け報告会
- ・FacebookなどSNSの発信（個人情報に配慮した形）
- ・ニュースレター（年5～6回）

（2）事業完了時の成果物名称

- ・活動報告書（完了報告書）
- ・関係機関向け報告会（年度途中で、研修会等に参加する関係者等に随時、活動情報を紹介している）
- ・SNSなどの発信（Facebook、インスタグラム、LINE公式アカウントなど）
- ・ニュースレター（小中学校向け、毎月2,000枚配布）



（3）未作成となった要因

特にありません

（4）成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください↓

<https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/gra gui 32.pdf>

（なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。）

上記で登録したURLをご記載ください。

https://nippon.zaidan.info/nf_lib/nf_libServlet/nf_lib1050?np=1019&jigyo_id=0000100514

2024年度 収支計算書

2024年4月1日から 2025年3月31日まで

事業ID:2024002541

(単位:%) 事業名:山口県萩市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(最終年度)

契約書(記3)に記載の補助率	80	団体名:特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク
----------------	----	---------------------------

(収入の部)

(単位:円)

費目	予算額(A)	決算額(B) 自動計算	助成金返還見込額
			自動計算(A-B)
① 日本財団助成金収入	5,760,000	5,760,000	0
② 自己負担	1,440,000	1,977,864	0
③ 収入合計	7,200,000	7,737,864	0

(支出の部)

(单位:円)

※助成金・負担金額の確定は監査終了後、当財団よりご連絡いたします。

大助成立 貢
※孟首額仁立

支払額に対し、決算額が下回った場合、助成金の返還が生じります。

7,757,00

【返還見込額の発生有無】

返還見込額の発生
無し

※「有り」の場合は予算額に対し決算額が下回っているため、返還金が発生する可能性があります。

【一致確認】※NGが出た際は、入力が間違っているかもしれませんので該当項目を再確認してください。

予算額(A)③収入合計 = 予算額(x)④支出合計	OK
決算額(B)③収入合計 = 決算額(y)④支出合計	OK

セルフチェック項目（プルダウンで選択）

- ①(収入の部)の予算額(A)の①日本財団助成金収入と③収入合計は、契約書に記載されている助成金額及び事業費総額と一致しているか。
 - ②(収入の部)の予算額(A)③収入合計と
(支出の部)の日本財団承認済の予算額(x)④支出合計が一致しているか。
 - ③【一致確認】欄は全て「OK」であるか。